

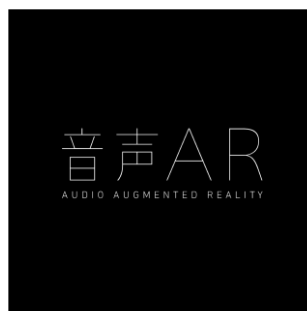
NEWS RELEASE

2019年10月2日
株式会社電通ライブ

電通ライブ、エイベックス、バスキュール、音声 AR 事業で連携 XR 領域における音声コンテンツの制作、プラットフォーム開発で相互協力

～和歌山県の無人島「友ヶ島」に音声 AR 導入へ。世界有数の“音”の美術館も開館～

株式会社電通ライブ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長執行役員：孫 生京、以下：電通ライブ）は、エイベックス・エンタテインメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：黒岩克巳、以下：AEI）、株式会社バスキュール（本社：東京都港区、代表取締役社長：朴正義、以下：バスキュール）と、音声 AR 事業での連携を開始し、音声 AR コンテンツの制作、プラットフォーム開発で相互協力します。



電通ライブ、バスキュールは、2018年1月に「音声 AR（読み：オンセイエーアール）」プロジェクトをスタート。ファイナルファンタジーの30周年を記念する展示会や映画ミッション：インポッシブルシリーズのプロモーションでの導入、六本木アートナイトでの作品出展など多数の制作実績を持ちます。数多くのメディアにも掲載され、グッドデザインアワードを始め多数のアワードも受賞。「音声 AR システム」として特許を出願しています。(URL：<https://onsei-ar.jp>)

同じく AEI は、2018年5月に音声 AR 体験事業として「SARF（読み：サーフ）」を立ち上げ、大塚 愛がナビゲーターを務める渋谷の音声観光ガイドや、三越日本橋店内の音声ナビゲーションなど、アーティストや音楽配信サービス「AWA（読み：アワ）」を活用した音声 AR サービスの企画開発や、音だけのホラーコンテンツやメディアアートなど、音声の特性を活かした音声 AR コンテンツを多数制作してきました。(URL：<https://sarf.jp>)

今回の事業連携では、音声 AR コンテンツの制作や、プラットフォーム開発、運用、営業、コンサルティング事業など3社の強みを活かすことで、音声 AR を社会に啓発し、企業や自治体が簡単に音声 AR コンテンツを作成・運用管理でき、誰もがストレス無く音声 AR コンテンツを体験できる仕組み（エコシステム）の構築を目指します。

具体的には、訪日外国人旅行者への音声による多言語での観光ナビゲーションコンテンツの提供や、音声によるスタンプラリーや聖地巡礼などアミューズメントコンテンツの提供、さらには、視覚障害者に対するアクセシビリティの向上を目的とした音声ガイドの提供など、Society 5.0 を見据えた多層的な社会インフラとして、音声 AR の普及を加速させていきます。

そして、事業連携の最初の取り組みとして、和歌山県和歌山市の無人島「友ヶ島」の観光活性化を目的とした、音声 AR による島内観光ガイドアプリ「友ヶ島」を、和歌山市と共同で2019年10月3日(木)にリリースいたしました。

また、観光ガイドアプリのリリースに合わせて、「友ヶ島第3砲台美術館」を開館。

「友ヶ島第3砲台美術館」は、「要塞島が美術館に。」をコンセプトに、近年神秘の無人島として注目を集めている和歌山市北西加太沖に浮かぶ無人島群・友ヶ島にある歴史的な要塞施設をそのまま美術館に変える試みで、世界でも類を見ない“音の展示”にフォーカスした美術館となります。 ※詳細は、和歌山市のプレスリリースをご確認ください。

URL：<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kankou/kankouspot/1001203/1025368.html>

※企画展詳細は、企画展ウェブサイトをご確認ください。

URL：<https://ymtk.t3fm.jp>



◆ご参考：音声 AR の特長

これまで主な AR コンテンツ及びデバイスの開発は、現実空間上に新たなビジュアル情報を重ねて表示する”視覚”の拡張を前提にするもので、スマートフォンなど既存のデバイス画面に依存することで生じる視聴範囲の制限、また、それを解消するデバイスが開発段階のため、AR を最大限享受できないシチュエーションが散在していました。一方で、音声 AR は、デバイスの制約や利用シーンの制約を受けない”聴覚”による拡張を前提とするため、現段階では”視覚”による AR と比べて、幅広いシチュエーションでの導入が可能です。視覚と比べた、音声 AR の特長は、以下の通りです。

- 1：デバイス（ハード）による利用シーンの制約がほとんどない
- 2：視覚と比べて注意喚起特性が高く、音声なので歩きスマホにならない（高い安全性）
- 3：人によってコンテンツに対してのイメージーションが異なるため、パーソナライズが可能
- 4：映像と比べて最小限のコンテンツ制作・運用コスト

以上

【本事業に関するお問い合わせ先】

株式会社電通ライブ キャンペーンプランニングユニット 松本健佑

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社電通ライブ 経営企画部 佐藤 TEL 03-6257-8607 <http://www.dentsulive.co.jp>